

「1958(昭和33)年 西鉄ライオンズ サイン色紙」

1950(昭和25)年から始まった日本シリーズでは、3年連続同一カードとなったケースが過去3度あります(51、52、53年巨人対南海、56、57、58年西鉄対巨人、67、68、69年巨人対阪急)。そして、その3度とも一方のチームが連続優勝を達成しています。

今回ご紹介するのは、1958(昭和33)年に日本シリーズ3連覇を果たした西鉄ライオンズの、三原脩監督と主力メンバーによるサイン色紙です。第7戦(後楽園)で優勝を決めた10月21日に宿舎の大国旅館で書いたもので、その旅館のご関係の方から94年に当館に寄贈されました。右上より、豊田泰光遊撃手、三原脩監督、中西太三塁手、稲尾和久投手、日比野武捕手、中谷準志一塁手、大下弘外野手、島原幸雄投手、川崎徳次投手で、9名のサインが書かれています。2012年現在、三原監督はじめ大下、稲尾、中西、豊田各選手が殿堂入りをしています(この他当時のメンバーでは仰木彬二塁手も殿堂入り)。

西鉄は、巨人を相手に56年は4勝2敗、57年は4勝1分けと連覇し、58年を迎えます。巨人がルーキーの長嶋茂雄選手の活躍やエース藤田元司投手の力投もあり3連勝するものの、王手をかけられた西鉄が反撃、第4戦は稲尾投手の完投に、豊田選手の2連続本塁打の活躍で6-4の勝利、第5戦は4回からリリーフで登板した稲尾投手が以降を無失点に

抑え、延長10回には自らサヨナラ本塁打の活躍で4-3の勝利、第6戦は中西選手の先制2ランに稲尾投手が完封と2-0で3連勝し、第7戦を迎えます。第7戦も稲尾投手が登板し巨人打線を抑え込み、中西選手の3ランなどで西鉄が6-1で勝利し、日本シリーズ3連覇を達成しました。

稲尾投手は第2戦を除く6試合に登板、ひとりで47イニングを投げ(現在も最多記録)4連勝の活躍でシリーズMVPに選ばれました。翌日の新聞では「不死身の連投」「奇跡を呼んだ稲尾の鉄腕」といった見出しが並んでおり、稲尾投手の活躍が伝えられています。

